

平成30年度北杜市総合教育会議 会議録 (要旨)

開催日時 平成30年8月24日(金) 午後4時

開催場所 北杜市役所 西館2階会議室

出席者 委員  
堀内正基教育長、秋山治雄教育長職務代理者、小澤一教育委員、  
小澤建二教育委員、浜口昌幸教育委員、進藤玲子教育委員、  
渡辺英子市長

教育委員会(教育部)

井出良司教育部長、三井喜巳教育総務課長、鈴木和幸教育総務指導監、  
田丸敬一総務担当リーダー、原ゆかり総務担当

事務局

丸茂和彦総務部長、宮川勇人総務課長、小澤哲彦総務担当リーダー、  
浅川輝栄総務担当

議題 (1) 中学校統廃合についての地域の意見集約について  
(2) (仮称)北杜市教育支援センターの設置について  
(3) その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人の人数 2人

内容

1. 開会

(午後4時)

2. 市長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 出席者紹介

5. 協議事項

会議招集者が市長であるため、市長が協議の進行役となる。

(進行)

「(1) 中学校統合についての地域の意見集約について」を事務局に説明を求める。

(事務局)

資料『中学校統廃合についての地域の意見集約について』により説明。

(進行)

意見、質問を求める。

(委員)

地域委員会に出席して、地域委員の意見を聞き、地域への思い・地域を大事にしたいというのを強く感じた。地域委員もどの方法が子どもにとって良い形になるか悩んでいる。市長・教育長等で方向性・手順を示してほしい。

(委員)

地域の人にとって中学校というのは思い入れが強く、郷土愛があるものだが、このままではいけないという強い思いもある。統合もやむをえないという方も若干多いように感じるので、何らかの方法を考えなくてはならない。

(委員)

中学生の子を持つ保護者の視点で考えると統合による通学面が心配。少子化も深刻的で学校教育が成り立たないので、統合するに当たり反対の方もいる中でそこを上回る熱意・努力を見せ、信頼を得てほしい。地域に話して、伝えていくことが信頼に繋がり、結果が出ると思う。

(委員)

北杜の大事な子と言う眼で見てほしい。少子化対策とその手前の結婚等、人口を増やす施策をしていただきたい。

(委員)

少子化、10年後の北杜市が想像できない。地域は温かく見守って、自分の子のように接しているように感じる。統合をすることで、子どもを見守ってきた方が寂しい思いをするのではないか。そのような思いが相まって意見が1つに定まらない。ある程度大きい学校で切磋琢磨させ、チャレンジできることを増やす

のか、少人数で和気藹々とするのか、これからの子育て世代の声を聞いて方向性を出していく必要性を感じる。

(委員)

小規模校の抱えている問題について2点挙げると職員定数と部活動の問題。学校には法律で定められた児童に対する職員の定数があり、小規模校になれば職員定数が少なくなる。そうすると、重要教科優先に教員配置を行い、専門教科は非常勤講師が行なうことになる。非常勤講師は学校を掛け持ちしなければならないので、教員の多忙化に輪を掛ける。学習指導については、少人数指導で決め細やかな指導をしていくのも1つ手だが、切磋琢磨という部分で見れば、意見や考え方をぶつけ合うことが出来ないのは不利だと感じる。部活動の面は、1つの学校で団体スポーツの人数が揃わず成立しない。市内他学校や韮崎市との合同チームを立ち上げている。指導者や子どもの減少により廃部に追い込まれるような実態がある。これらは、北杜市でも大きな課題、教育の課題として捉えている。

(委員)

小規模校の課題を解決する様な方策を市独自で立ち上げるのはどうか。国の法に則って基本学級を行なっているが、嫌な思いをしても次の日には同じ場所へ行かなければいけない。市独自の方策で緩めて対応していくのはどうか。

(委員)

大勢で行事を行なうというのは、人数が増えることによって生徒の感動が大きくなるのではないかと。大きな達成感や感動を与えてほしい。

(進行)

保護者をはじめ多くの方から意見を伺う為、学校単位にワークショップなどを設けていきたい。また、地域委員会連絡協議会で報告いただいた意見を踏まえ、教育委員会で今後の進め方や手法を検討していただきたい。

(一同)

同意

(進行)

「(2) (仮称) 北杜市教育支援センターの設置について」を事務局に説明を求める。

(教育部)

資料『(仮称)北杜市教育支援センターの設置について』により説明。

(進行)

意見、質問を求める。

(委員)

韮崎のコスモス教室がなくなるにあたり子どもの居場所をしっかりと考えなくてはいけないので設置することにした。子どもたちは義務教育の中である為、県の教育委員会と連携を図っていくべき。市単独でという形を強く進められることに危機感と不安がある。国や県と連携をとるような形で進めていければ良い。

(委員)

韮崎コスモス教室が県で設置した適応指導教室で、施設の設置は市町村の責任でも、人為的な対応は県で対応してもらいたい。専門的な知識・経験が必要になってくるので県と結びついたスタッフに来てほしい。

また、実際北杜の子で韮崎コスモスに通っている子どもがいるが、必ずしも北杜市の子どもが全て北杜の教育支援センターに来れるとも限らず、また、他市から北杜市へという希望もあるかもしれない。今後の生徒の受け入れについては、市単独で考える問題でもないので、県と市町村でやることを明確にしたい。

(委員)

県のほうに働きかけるというのは大変心強い。市でセンターをつくって不登校児童生徒の通える場所をつくるという決断は素晴らしい。将来生きていく力を子どもにつける、社氣的に自立する力をつけるのは大事なことだと思う。センターになるべく多くの不登校の子に来ていただいて、学校復帰を支援する施設になってほしい。

(委員)

国や県から方針が出ることが大切。連携を深くしていくべき。今の韮崎コスモスにも韮崎の子どもより南アルプス市や甲斐市、北杜市から通っている子が多い状況。子どもたちは場所を変えると気持ちが楽になるのではないか。センターに来て子どもたちが学ぶことの楽しさや生きる喜びを得てくれればと思う。

(教育部)

参考に、不登校を長期欠席と捉えると年間100人強の子どもたちが学校に行けない状況がある。今年度でも既に7月末現在で70人余りが長期欠席の状況にある。教育支援センターの適応指導教室がまず重要な事項だが、相談業務・訪問指導に重点を置く為に人為的な配置も理解いただきたい。

(進行)

今日提案があった中で、センターができるまでに意見・アイデアを寄せていただきたい。

(委員)

場所的に交通機関が不便ではないか。親の送迎についてだが、理解を頂けないという話も聞いている。子どもが行きたくても親が参加してもらえないと行けないという点について何か良い方法はないか。

(教育部)

まだこれから検討していく課題と認識している。基本保護者の責任の中での通所となる。しかし、自ら公共機関を使って通いたい児童については、市の通学補助金を適応できればと考えている。通学補助金については、他の児童との公平性を保ちながら、開所に向けて検討していく。

(委員)

開所に当たっては、北杜市の子どもたちに、すべての子ども達を大切に思い手を差し伸べていくことを伝えるべき。メッセージを受け取るだけで救われる子どもも多いのではないか。開所時には、開所を伝えるだけでなく手を差し伸べていく強いメッセージを送ってほしい。

(教育部)

手を差し伸べ、是非きていただけるよう情報発信に努める。

(委員)

「北杜市教育支援センター」という名称になるのか。国から支援を受けるのだが、通室する子が支援を受けるとわかる名称は周りから気になるのではないか。名前も子どもの視点に立ったメッセージ性があるものが必要ではないか。

(進行)

名称についてはこれから、しっかりと親しみのあるものを検討していく。

(教育部)

名称については、制度上の名称が教育支援センターということで、12月に条例を制定するので、その中で愛称を含めて検討していく必要があると考えている。

(進行)

他に何か協議事項がありますでしょうか。

委員さん、事務局等よろしいでしょうか

(進行)

以上で協議事項を終了する。

(事務局)

以上で北杜市総合教育会議を終了する。

6. 閉会

(午後5時05分)